

## 平成 29 年度事業報告

### I. 教育における重点項目

#### 1. 上位者育成

実施内容：

- a) 平成29年度より中学の自学自習力をつける時間（Jタイム）を放課後週3日から週5日設定に拡大
- i) Jタイム週5日の教科内容は、英語・数学2日、国語1日とし使用教材の見直しも行った（図1）。

#### 平成28年度以前

中学1年生			
教科	英語	数学	国語
全員/担任	64マス 問題集 長文	64マス 計算力	64マス αスタンダード

中学2年生			
教科	英語	数学	国語
全員/担任	64マス キクタン 問題集、長文	64マス キクタン 計算力	64マス キクタン αスタンダード

中学3年生			
教科	英語	数学	国語
全員/担任	64マス キクタン 長文	64マス キクタン 計算力	—

#### 平成29年度以降

中学1年生			
教科	英語	数学	国語
上位/教科	Z会	Z会	αスタンダード ウイニングプラス
普通/担任	64マス αスタンダード	64マス 計算力	64マス αスタンダード

中学2年生			
教科	英語	数学	国語
上位/教科	Z会	Z会	αスタンダード ウイニングプラス
普通/担任	キクタン αスタンダード	64マス 計算力	64マス αスタンダード

中学3年生			
教科	英語	数学	国語
上位/教科	Z会	Z会	αスタンダード ウイニングプラス
普通/担任	キクタン αスタンダード	64マス 計算力	64マス αスタンダード

図 1. Jタイム週5日制・上位講座開設に伴うプログラム更新内容

- ii) 習熟度の高い生徒については別室にて上位者講座「チャレンジ講座」を設定し、Z会添削を受講し、教員の解説も加えている。中学1年生 30名、中学2年生 45名、中学3年生 39名が受講した。
- iii) Jタイム週5日実施のため、火曜日の部活の時間は廃止。ただし、火曜日の放課後（16:00以降）は部活動優先日とする。「チャレンジ講座」受講生は、部活優先日を除いて最大16:15まで延長できるように各部活顧問に周知した。
- b) 高校に「特進クラス（新星組）」を設置
- i) 「特進クラス」は「特進クラス」を希望する成績上位者で編成し、文系理系混在クラスとする。
- ii) 文系と理系の生徒が同じ教室で学び切磋琢磨していくことで、の合教科、教科横断型の出題に対応する。
- iii) 「特進クラス」は、学習指導を強化するため、指定の特別講習、学習指導行事への参加を優先するために所属出来ない部活を設定し指導した（高校バレーボール部、高校バスケットボール部、ダンス部、ギターマンドリン部）。

結果分析：

- a) 従来の任意による上位者指導から、Jタイムの時間内に「チャレンジ講座」を組み入れたことで、英語、国語、数学の三教科について、均等に実施可能になり、教員による解説の回数も増やすことができ、成績向上にも一定の成果を上げた。実際には成績上位者の中でも解説が必要な生徒がいる一方で、自分のペースでZ会添削を進めたい生徒もいて、対応が難しい部分があった。また、教科によっては教材の難易度が高すぎるという学年別の声もあり、今後検討が必要である。
- b) 平成29年度から特進クラスをスタートした。第一期生は、切磋琢磨できる環境の中で、着実に学力をつけてる。高校1年時の外部模試では英国数のクラス平均偏差値が4.6ポイント向上し、61.5になった。これは旧帝大合格レベルといわれる偏差値62.5を狙えるレベルである。今後、進路プログラムなどを更新し、進学への動機付けと、新しい大学入試への対応を進めていく予定である。

2. 行事での学びを強化する

実施内容：

- a) 学園祭を主体的な学びの実践の場として深化
  - i) 学園祭ホームルーム展（HR展）を、地域と世界で活躍するグローバルシチズンシップを備えた女性の育成のための「西遠新国際教育」構想のなかの「課題探究学習」発表の場として位置付け、他の学校行事と有機的に関連付けて実施した。
  - ii) HR展の全体テーマを「伝統と創造」とし、学年の進行に合わせて難度を上げた課題に取り組みさせた。

学年	テーマ	内容説明
中学3年	地域の魅力	遠州を題材に調査・取材を行い、外国の人々に地元遠州の魅力を紹介する
高校1年	地域と世界	地域と世界の関わりを個人・社会・文化などをテーマに比較する
高校2年	地域と世界の未来	地域の活性化を目指し、地域や世界の課題に対して、未来への提案を行う

- iii) 高大接続を強化するため、静岡県文化芸術大学 文化・芸術研究センター長 峯 郁郎教授に、「デザインって何？デザインの面白さ」という演題で講演を実施していただいた（中学3年～高校2年生対象 平成29年7月2日（土））。
- iv) HR展審査のためのルーブリック評価（観点と尺度による評価体系）を設計・更新し、生徒が事前に審査される観点を理解出来るようにして評価を行った。
- v) 中学2年生は、「職場体験」で訪問させてもらった企業をテーマに、学園祭でポスターセッション形式のプレゼンテーションを行った。

結果分析：

- a) 生徒はルーブリックの4つの観点を意識し、調査研究と展示製作を進めた。学園祭当日は、相手を見て自分の言葉で説明することができ、プレゼンテーションの力を伸ばすことができた。教科横断型の学習や、ものづくり力、情報リテラシーなどの力を育成できた。一方で、クラスの研修テーマ選定過程については、候補テーマの掘り下げや研究の展開などに浅さもあった。平成30年度以降に強化・深化を図りたい点である。  
 中学2年は、夏休みの「職場体験」での実習体験と訪問企業の情報を個々が模造紙にまとめ、学園祭の2日間で「ポスターセッション」を実施、2つの行事を探究学習として結びつけることができた。2年生の姿勢も堂々としたもので、次年度からHR展を行う学年としての自覚が感じられた。発表形態や時間帯については、検討すべき点が残った。

## II 教育環境整備

### 1. 教育課程の変更

実施内容：

- a) 「クラブの時間（火曜日7限）」は廃止し、授業時間数の変更
  - i) 「クラブ・部活」を「部活動」と呼称の統一をし、部活数を29から24に削減した。
  - ii) 中学の教科授業時数は、国語を4時間に、英語を6時間（授業5+英会話1）に変更し、週合計30時間とした。
  - iii) 高校の授業時数は、以下の通り変更する。

火曜日の7限「クラブの時間」廃止に伴い、月～金は7時間の授業（6年私文を除く）とする。

4年〔授業時数：36→37〕

[国語総合⑤・化学基礎③・英語表現Ⅰ③]→[国語総合⑥・化学基礎②・英語表現Ⅰ④]  
(○で囲んだ数字が単位数、以下同じ)

5年〔授業時数：私文36→37 国公文・理系37→37〕

私文[英会話①]→[英会話②]

国公文・理系は変更なし

6年〔授業時数：私文32(36)→32(36) 国公文・理系36→37〕

私文看護系[日本史A②・看護数学③・看護生物③]→[看護数学④・理科基礎演習④]  
(日本史Aは5年で履修済み)

国公文[センタ数学④・数学ⅡB演習④]→[センタ数学⑤・数学ⅡB演習⑤]

理系[数学Ⅲ⑧]→[数学Ⅲ⑨]

[数学ⅡB④・数学演習②・セ英語②]→[数学ⅡB⑤・数学演習②・セ英語②]

結果分析：

中学の単位減少分については、Jタイムとの兼ね合いもあるが、授業内での問題演習（学判対策などを含め）が不足し、教科担当による生徒の学力把握の機会が減少する結果となっている。

高校の単位増加分については問題演習等の時間として有効活用ができています。また、4年国語について、菊蔭組は「現代文」「古典」を別担当にしたことで時間割編成の制約が減った一方、星組は同一担当とすることで6時間をフレキシブルに使えるなど運用面での効果が見られた。

### 2. ICT機器の導入

実施内容：

- a) 中学全教室へのICT機器導入
  - i) 中学の教室全てにICT機器（超短焦点プロジェクター、スクリーン、マルチメディアプレーヤー、タブレットPC 5台、書画カメラ 5台）を導入設置した。
- b) 無線LAN接続環境の実証実験
  - i) 西館 2F 特別教室にWiFi設備を設置し、教員への利用方法講習を行った。

結果分析：

- a) 48.8%の教員が、昨年度に少なくとも一回以上、ICT機材を利用した授業を行った。一方で毎週一回以上の頻度で利用している教員は7.7%にとどまり、現状でICTを活用した授業が頻繁に行われているわけではない。ICTを導入した授業に対する受け止め方も教員により差が大きく、今後、教員間でさらなる研修と教材開発を進める必要がある。

### 3. 学級編成及び教室配置の変更

実施内容：

- a) 学級編成の
  - i) 新中学1年生（75名）は、2クラスの均等編成とした。
  - ii) 新高校1年生は、「特進クラス」1クラス、「進学クラス」3クラスの4クラス編成とした。
  - iii) 新高校2年生は、私立文系2クラス、国公立文系1クラス、理系1クラスのコース別4クラス編成とした。
- b) 教室配置の変更
  - i) 同学年が横並び同フロアで生活することで教育効果の向上を図るため、中学生を西館に、高校1-2年生を東館に移動した。

結果分析：

- a) 中学1年が2クラスでスタートを切り、中学校8クラス、高校12クラスの計20クラスの体制であった。中学音楽コンクールでは、かつて各学年3位まで発表していたが、平成29年度は各学年の1位のみを発表した。高校では、特進クラスを星組とし、高1は菊・藤・月・星の編成とした。混乱なくスタートを切った。
- b) 校舎の学年配置を変え、1学年ワンフロアで学年指導の効率化を図ることができた。東館では教室後方のロッカーが生徒人数に合わない教室もあり、廊下にロッカーを設置した。